

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2011 および 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウムのご案内

東日本大震災により、平成23年度日本植物病理学会大会とともに中止となっておりますEBC研究会および殺菌剤耐性菌研究会の今年度のシンポジウムをあらためて合同で開催することにいたしました。皆様には、奮ってのご参加をお願い申し上げます。

日時：EBC研究会ワークショップ 2011 平成23年10月18日(火)12:30～17:15, 受付は12:00より。
第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム 平成23年10月19日(水)10:00～15:15, 受付は9:30より。
場所：東京農業大学グリーンアカデミーホール (世田谷区桜丘3-9-31)
<http://www.nodai.ac.jp/kouyukai/map/map.html> を参照下さい。
小田急線経堂駅もしくは千歳船橋駅から徒歩15分。

なお、2つの研究会運営の都合上、参加要領は以下のように別々になりますので、ご注意下さい。

(EBC研究会ワークショップ 2011)

参加費：会場費等として、会の運営上大変申し訳ありませんが、本年度より2,000円(ただし、学生は1,000円)を受付時に徴収させていただきます。

参加申込：下記EBC研究会事務局宛へ9月5日(月)までに電子メールにてお願いします。申込をされた方には、講演要旨の入手方法等をメールでご案内します。なお、会場にて当日受付も行います。

懇親会(会費5,000円程度)：EBC研究会ワークショップ終了後、18:00頃より予定しております。参加をご希望の方は申込時にお申し出下さい(定員になり次第締め切らせていただきます)。なお、会費は懇親会場で徴収させていただきます。

問い合わせ先：EBC研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理研究室 根岸寛光 (e-mail:negishi@nodai.ac.jp)

(第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム)

参加費：3,000円(学生の方および講演要旨集のみご希望の方2,000円。なお、講演要旨集は前日のEBC研究会の受付でも、ご希望の方に販売いたします)

参加申込：当日会場にて受付します。事前申込の必要はありません。

問い合わせ先：殺菌剤耐性菌研究会事務局 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所カンキツ研究領域 足立嘉彦
(TEL/FAX:054-369-7116/054-369-2115 e-mail:nagoya@affrc.go.jp)

<プログラム>

10月18日(火) EBC研究会ワークショップ 2011

12:30 開会

12:35～13:20 現地圃場試験の積み重ねによるビワ病害防除でのエビデンス構築
菅 康弘(長崎県農林技術開発センター)

長崎県の特産果樹であるビワの病害防除の現状と、生産者とともに取り組んだ現地実証試験でメタアナリシスの手法を用いて果実腐敗に対する耕種的防除の効果を推定した事例を紹介いたします。また、防除暦の策定の際に問題となっている事柄と、その解決に向けて実施している試験内容をEBC的に解説します。

13:20～14:05 薬剤防除試験成績の現場指導への活用事例ー岩手県における農作物病害虫・雑草防除指針を例にー
岩館 康哉(岩手県農業研究センター)

岩手県農作物病害虫防除指針を例に、薬剤防除試験の成績を現場での指導に活用している事例を紹介いたします。具体的には、キュウリ黒星病、ダイズ紫斑病の事例について、メタアナリシス等による防除効果の評価事例や、実際に防除指針を作成する段階でどのように活用しているか、実例を用いて紹介します。

14:05~14:50 水稻品種「まっしぐら」の穂いもちに対する減農薬防除体系別のリスク評価

倉内 賢一(青森県産業技術センター農林総合研究所)

青森県の水稲品種「まっしぐら」はいもち病に強いいため、生産現場では様々な減農薬防除体系がとられていますが、農家は自分が選択する防除体系に十分な根拠が無いまま実施している現状があります。そこで、農家が体系を選択する際の一助となるように、いくつかの減農薬防除体系について穂いもちの減収リスクを評価した事例を紹介します。

-----休憩 (15分) -----

15:05~15:50 パネルディスカッション

”EBC 研究会が目指す、病害防除の研究とはーワークショップ7年目を迎えてー”

座長: 川口 章(岡山県農林水産総合センター農業研究所)

EBC 研究会は毎年開催するワークショップを中心に活動してきましたが、ここでもう一度、EBC の必要性や、今日、病害防除研究者に求められていることを再認識すべく、農業現場の第一線で活躍している研究者らと交えたパネルディスカッションにより、本研究会が目指す病害防除の研究について議論していきます。

15:50~17:10 新規薬剤の紹介

1. 展着剤の種類と機能 川幡 寛(JA全農 営農販売企画部 営農・技術センター)
2. 展着剤「まくびか」の作用特性と上手な使い方 杉本 光二(石原産業(株)生物科学研究室)
3. 展着剤「ワイドコート」の作用性と上手な使い方 小川 一輝(日本化薬(株)研究開発部アグロ研究所)

防除の現場で展着剤を使用する場合、その機能を理解して使用目的に最適な剤を選択していく必要があります。ここでは、展着剤の種類によって異なる機能を活かした活用方法について、また、具体的に「まくびか」と「ワイドコート」の作用特性を活かした現場での使用方法について紹介します。

17:15 閉 会

10月19日(水) 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

10:00 開 会

10:05~11:05 Trigger off endogenous plant defenses by isotianil, a new resistance inducer:
Induction of the entire set of plants defenses for improved resistance management
Valerie Toquin (Bayer CropScience Lyon)

11:05~11:50 岐阜県におけるアゾキシストロビン耐性トマト葉かび病菌の発生動向
渡辺 秀樹(岐阜県農業技術センター)

-----昼食休憩 (70分) -----

13:00~13:45 わが国におけるブドウべと病菌の QoI 剤感受性の実態
鈴木 俊二(山梨大学)

13:45~14:30 山梨県における QoI 剤耐性ブドウべと病菌の発生
綿打 享子(山梨県果樹試験場)

14:30~15:15 長野県におけるブドウ晩腐病菌の QoI 剤感受性の実態
近藤 賢一(長野県果樹試験場)

15:15 閉 会

※ 本プログラムの内容は、都合により変更することがございます。